

10月の生活表

2021年10月

聖マリア幼稚園

年主題：共に喜んで～すべての歩みの中で～

月主題：はずませて

・保育日数（21日）

月目標：

（3歳）・聖書のお話を聴く機会が増え、神さまの愛（みこころ）を共に感じる。

・季節の移り変わりを感じる中で、身体を動かす心地よさを感じる。

・リズムや音楽に合わせて、歌ったり身体を動かすことに心を弾ませる。

（4・5歳）・神さまが作られた世界、自然を五感で感じ、恵への感謝を賛美や祈りで表す。

・ひとりでも友だちとでも、心と身体をはずませ夢中になって取り組み、深めたり、創りだすことを楽しむ。

・躍動の時と静まる時の両方を、豊かに心地よく過ごす。

・絵本や物語をゆっくり楽しむ。

<保>心を合わせる充実感や楽しさを感じられるような活動を計画し整えていく。

一雨毎に気温が少しずつ下がっていく様です。いよいよ本格的な「秋」がやって参ります。また本日をもって緊急事態宣言が解除されますが、変異株に因る第6波への懸念も拭いきれません。私たち個々の取り組みがまだまだ問われる日が続くでしょう。素敵な秋を過ごす為に少しは我慢しつつ心いたしましょう。

先日の敬老の日にお届けしました子どもたちからの絵手紙に対して、幼稚園へまたお孫さんへお手紙を届けられた方々がおられます。私どもは改めて切手の貼られたお便りに心温まるものを感じました。文章を書いてもmailやlineとは違うこの感覚は何なのでしょう。改めて感謝申し上げます。運動会や感謝祭・X'masなどに、祖父母の方を是非ともお招きしたいと念じていますが、どうなることでしょうか。早い収束を!!!

さて、2学期もあっという間にひと月が過ぎてしまいました。目には見えない中で、子どもたちの心の成長が様々な経験を積むことで深く広く養われていくと言われるこの充実期の2学期。大切な学期での経験の一つ一つに心が「はずむ」「はずませられる」みんなが「はずませて」取り組める日々であることを願います。体力や最後までやり切る根気と悔しい或いは嬉しいを経験して相手を思いやる心の養いとなる運動会。また一人ひとりの取り組みとお友だちとのバランスで自分の頑張りが一つの劇や合奏を作り上げていく、そして自分の命に対して考える機会を持つ感謝祭。見えない所から私たちを守り導いてくださっている神様。その独り子の誕生を祈りを持って感謝し、お祝いする生誕劇。既にこの園での生活経験のあるお子さんは、その時々内容は異なっても、どのようなことをするのかを把握していることと思っています。が、その流れの中で、子どもたちが「はずむ」その時を私たちはしっかり捉え、下準備をしなければなりません。子どもたちと内容を共有しつつさらに深め、広げ、それぞれの思いを汲み取ることによって、子どもたちが「はずむ」ようになると考えています。先生の先導のみではありません。先生がレールを引いてしまうものではありません。勿論レールはあります。当園の教育理念や目標（ねらい）の上に立って進めていきたいレールです。が、その上に乗って運転するのは子どもたち一人ひとりの育ちであり、想いであり、意欲であり、喜び、やる気でなければなりません。それは、一人一人の先生の力量にかかっているとも言えるでしょう。この園は全部の先生が全部の子どもたちを把握しているので、皆の意見が交わされて進められています。一人一人を見つめ、心のはずみの有無を捉えねばならないと考えています。「はずみ」は意欲となり、探究心にもなり、持続力をも生みます。そして、その積み重ねが自他共に認める自信へと繋がっていきます。はずみきれない時にどのような手を差し伸べるのか、言葉をかけるのかということです。園と家庭連携で大切な者を守りましょう。そして自然の移り変わりと共に2学期後半へと続く一つ一つの経験が会得できますように。

《チャプレンコーナー》 10月 月間主題：はずませて

月聖句：あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。

(ルカによる福音書 10：20)

イエス様は様々な奇跡を行われました。イエス様の弟子たちも、少しは奇跡が行えたようです。宣教の旅から帰ってきた弟子たちが、イエス様に報告します。

「先生お名前を使うと、悪霊さえも私たちに屈服します。」悪霊が屈服する、とは、多分、病気を癒す、ということでしょう。医療が十分に発達していなかった当時は、病気の原因を悪霊に求めることが多かったようです。弟子たちは、「自分たちもイエス様のような奇跡を行えた！」と、気分が高揚していたようです。

そのような弟子たちにイエス様が言われたのが、今月の主題聖句です。「目に見える成果だけを喜ぶのではなく、病気を癒すことで苦しむ人々が少しでも楽になり、そのことを神様が喜んでおられることを、一番喜びなさい」という意味でしょう。

私たちは、物質的な成功や成果、そしてそれによる人、社会からの評価を求めます。また、そのことをとても気にします。けれども、私たちが最も求めるべきは、神様からの評価です。私たちの生きざまを、神様がどう見てくださるか、という「神様からの視線」を気にしたいと思います。人からの視線は、ある意味、調整や操作が効くでしょう。けれども、神様からの視線には、ごまかしがききません。本当に正しいこと、優しいこと、本当の愛こそが問われるのです。

「人から評価されずに、神様からだけ評価されること」、この最も身近で具体的な例は、子どもへの愛です。子育ては、苦勞が多いものです。けれども、神様は、最も評価してくださいます。神様からの評価と、子どもからの笑顔が、私たちの報いです。

おたんじょうび おめでとうございます

3日：	4日：
10日：	18日：
20日：	22日：
23日：	25日：

<生活指導>

☆ 秋の自然を見つけてみましょう。

- ・木の葉・木の実・草花・虫・果物・空・雲・風etc.身の回りの自然に目を向け、季節の変化に気づき、自然の不思議について考え、自ら関わる事で親しみを持ちましょう。

(親子で自然物を使って、何かいいものを作ってみませんか)

☆ 運動会を機会に身体全体の様々な運動に対し、取り組む意欲を養い、子どもの発達を注視し、成長を促してみましょう。

- ・運動会はひとつの機会にすぎません。日々の機会がどこにあるのか、また機会をどのように捉えてみるのか、基本的な体の動きを確認しながら、親子で楽しんでみましょう。

- ・気候の良い時に、保護者の協力のもと、戸外で身体を動かして遊びましょう。

例えば、ボールころがし・キャッチボール・ボールつき・バトミントン・大縄跳び・縄跳び・ケンパ・鉄棒・フットサルetc. ゆったりとした時間を作り、お父さんお母さんの幼児期を思い出し、近くの公園で一緒に遊んでみませんか。

- ・身体を動かす基本動作（跳ぶ・走る・渡る（側溝の上等も）跨ぐ・潜る・でんぐり返り（前転と後転）・転がる（横転）・背伸びする・線の上をつま先歩きする・両足跳び・けんけん・ギャロップ・スキップetc. 家の内外で沢山その機会を捉えてみましょう。

- ・手先の動作（巧緻性＝器用さ）もとても大切です。

クレヨンでしっかり色が塗れる（はみ出さずに、白い所が無くなるまで、しっかり色を塗る事ができるetc.（クレヨンを塗る力加減で鉛筆や消しゴムが上手に使えるようになります。）

はさみを使う

（どれだけ線に沿って切れますか。どちらから切り始めていますか。反対の手はどのように添えていますかetc.）

じゃんけん（指1本ずつがしっかり動かせますか？）が出来ますか？

（勝ち負けの意味がわかりますか。）

お箸が使えますか（お箸・スプーン・フォークの使い分けが出来ますか）お箸もスプーンも正しい持ち方で＝花組でも十分に使いこなしている児もいます。勿論個人差はありますが、例えば、エジソン箸よりも、ことばを添えて根気よく方法を教えて下さる方がよいでしょう。

- ・何事にも、「やってみなさい」とみせるのではなく「こうしてごらん」と同じ方向から手を持ったり、添えながら教えてあげて下さい。

☆2学期は各々の学年で子どもが個人差を持ちながらも各々に大きく自立しようとする大切な時です。

- ・保護者は、自律＝自立の意味（自らやってみようとする意欲が大切）をしっかりと把握しましょう。
- ・愛情を注ぐことと言いなりになることとは意味が違います。（親の手を出さない我慢が大切です）
- ・子どもが自立するという事の意味はいっぱいあります。「しっかりしてほしい」といいつつ……。口と一緒に手を動かし、助けてしまっていないですか。出来ない所のお手伝いを。
- ・大人もしっかり返事や受け答えをしてみましょう。大人の意見を押し付けたり、何も気にせず通りすぎない様に。

（大人のその時の気分や時間の無さで知らずに通り過ぎていませんか）

- ・子どものお話にゆっくり耳を傾け、同じ方向を向いて話を深めてみましょう。
- ・大人も子どもも呼ばれたら返事をし、自分の存在を知らせられるように。
- ・ご挨拶（おはようございます。こんにちは。こんばんは。おやすみなさいetc.）が良い癖になるように。
- ・自分の意志表示に相づちができるか試してみましょう。
- ・大人が大切な話をしている時には、子どもが我慢する事も必要です。
- ・様々な場面展開に対応出来るように、大人は物には「名前＝名称」があることをしっかり言葉にして話をし、ある時は文章で返すことも試してみましょう。

☆社会（国際・日本・都道府県＝郷里・地域など）の事象に触れてみましょう。

- ・社会事象から、世界〇〇〇など様々な報道がされています。地球儀や地図等を真ん中に、顔を寄せ合って自分の存在地点（国、他国）を確認してみましょう。
- ・大人は子ども達と話題を共有することにより、子どもに合わせて解りやすく説明してあげることが必要です。絵本・新聞・テレビ等を通して、ちょっと時間を作ってみませんか。

☆体調を気遣いましょう。

- ・昼夜の気温の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整を致しましょう。
（ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。）
- ・上着は保護者が持ち帰らず子どもにお預け下さい。（自分のものとして処理できる様に）
- ・マスク・手洗い・消毒・入浴・朝の洗顔etc. 自分の体を感染予防し、また清潔に保てるように声掛けをしましょう。

<クラス便り：各担任より>

<花組>

小さな小さな団栗を可愛い手に握りしめて登園し、いつものお机のいつもの場所（小さなお皿）にそっと置いて...にっこり微笑むその横顔は何とも愛らしくとても穏やかな気持ちになりました。朝夕の冷え込みや園庭のコオロギやバッタさん、そして落ち葉の色味...秋を感じる頃になったんだな～としみじみと2021年も残すところ3ヶ月なのだと、驚きます。

運動会の練習をスタートし、運動遊びや並ぶこと、自分の前うしろのお友達は誰なのか？赤帽・白帽と2つのチームに分かれることで、自分と誰が同じチームなのか・覚えることや考えることが沢山ありました。どれもこれも遊びを通して覚えていくことから始めていきますが、運動会の練習は、どうも『自分だけ』が良ければ良いのではないということ、「小花ちゃんは？」「〇〇ちゃんががんばれ～」「〇〇ちゃんこっちだよ！」と、お友達のことも意識して、赤組さんや緑組さんの姿を見て興味関心を持つこと。「すごい！」「頑張ってる～！」と応援するという人を思う気持ち。同じ赤帽・白帽チームの赤組さんや緑組さんの競技での勝ち負けに一喜一憂するということ。合同の競技では、赤組さん・緑組さんが花組に合わせてくれていることに安心して頼っている姿。大きな運動場で華々しく出来なかった運動会。沢山の声援を浴びながら青空の下で出来なかった運動会。悔しい思いは拭えませんが、幼稚園の運動会で経験させてあげたいと思うことや、その経験から学ばせてあげたいと考えていることは、どのクラスも保育の中での練習はもちろんのこと、それ以前からも練習への導入でも精一杯盛り込んでできました。沢山の様々な思いの中での運動会。何よりも、子どもたちが楽しんで取り組んでくれますように。一生懸命の子どもたちの姿を、目でビデオでお写真で...と様々になってしましますが、楽しんでご覧いただけたらと思います。

残すところ3ヶ月の2学期、されど盛り沢山な2学期です。未だ先の見えぬコロナ禍で行事がどのようになるのか、子どもたちを取り巻く環境や状況がどうなっていくのか、まだまだ不安や心配は尽きませんが、嬉しいことに10月末には、小花ちゃんの女の子をお一人お迎えして、8名になる花組さん！とても嬉しいです。一人がお喋りを始めるとみんなでその話題でどんどんお話が膨らみ大笑いが止まらない花組さん。みんな自分の思いやお家での楽しいお話や面白いお話を上手く状況説明出来るようになってきました。その中でもみんなのお話をリードし面白おかしく盛り上げてくれるのが小花ちゃんなんです！そんな楽しく笑いの絶えない花組さん。秋も、心で身体で季節を目一杯感じながら楽しく過ごしていきたいと思います。

<赤組>

雲ひとつない青空のもと「いっせいのーで」という掛け声とともに紙飛行機が飛びます。「やったー！僕のがいちばん！」「よーし今度こそ一番になるぞ」自分で織った自慢の紙飛行機をログハウスの上から飛ばす紙飛行機競争。他にもバスケットボールに、ケイドロなどみんなで協力したり競い合ったりするルールのある遊びへと変化してきました。朝から元気いっぱい身体を動かし、太陽のパワーを思い切り感じ取っています。

涼しくなったとは言え太陽の光をいっぱい浴びると、やはりまだまだかく汗。お片付けを終えてお部屋に戻ってくると顔は真っ赤、汗だく。1学期には言われなければ気付かなかったお着替えの必要性、汗をかいたままにしておく痒みや風邪をひくことを1学期、夏休みに経験を通して知ったことで、汗をかいたら自分で拭く、着替えるという選択を自分ですることができるようになってきました。また花組の時から毎月行っている身体測定、そして夏のプールと衣服の着脱を何度もすることで、今で

は花組さんのお手伝い屋さんになるほどお着替えが上手になっています。衣服の着脱は、もちろんお家でも自分でしていることとは思いますが、衣服の前後を確認し、きちんと着ることができるようになりました。そんなお着替えが上手になった赤組さんの姿を見てもらいたい！とそんな思いから、今年の赤組の競技「お寿司ばんざい！」は、お寿司法被を着てお寿司に変身することになりました。（なぜお寿司かと言いますと、1学期末頃のスイミーの話から魚はあまり食べないが、お寿司はよく食べる！大好き！ということを知り、子どもたちの大好きな寿司ネタを聞いているところお寿司に変身してみようとなりました。）この競技はお寿司カードを引いて変身するお寿司を決め、ハンガーにかかっているお寿司法被をとるところから始まります。ハンガーからずり落ちないように止められている洗濯ばさみをつまんで取る、法被の前後を間違えないように着る、紐をひとつ結びにすると、よく見ると生活に必要ないろんな動作が入っているのです。ひとつ結びについては、お弁当包みを上手にしている姿や最近蝶々結びを必死に練習してできるようになった子がいたこと、いずれはその蝶々結びや縄跳びの結び方につながればという願いを込めて取り入れたのでした。競争ということで、いつもならすんなりと着られるものも、気持ちばかりが焦ってしまいうまく袖が通らなかったり、紐が結べなかったりしていますが、落ち着いてするとところと走るところとメリハリをもってお寿司ばんざい競争を楽しんでいます。運動会の日には着替えの速さと正確さ、どのような形でお寿司が完成するのか？に注目してみて頂ければと思います。

競技中も真剣でとても楽しそうな赤組さん、お友達が頑張っている時も「がんばれー」といつも声を出して応援しています。それは自分と同じクラスだからではなく、一生懸命に頑張っている花組さん、そして大きな緑組さんに対しても同じように、また自分のチームを応援することもあるし、最後まであきらめないで頑張っているお友達を応援していることもあります。応援することで誰かの力になり、応援されることで頑張れる、そんなことをこの運動会から感じ取っているようです。前述の遊びの姿は、そんな友達と協力する楽しさを身体いっぱいを感じている今の赤組さんだからこその姿だと言えます。友達と協力したり助け合ったりする楽しさ、友達の声が力になる瞬間を味わっているからこそ遊びの広がりです。

友達と協力するということは、自分の気持ちを伝えたり、友達の気持ちに寄り添ったりすることが大切です。そのためには時には自分の気持ちを少し我慢、自制することも必要ですね。衣替えの10月を迎えます。半袖から長袖へ。衣替えのように、1学期、夏休みを経て、一皮も二皮も剥け、家では甘えん坊でも幼稚園では甘えの皮が剥けてきたように思います。自分の気持ちのコントロール、もちろん難しい時もあると思います。しかし大きくなろうとしている赤組の子どもたちの力を信じ、また一步成長するためにも「がんばれー」と隣で応援しながら共に新しいことへ挑戦していく10月にしたいと思います。

<緑組>

いよいよ明後日は運動会です。この日を子どもたちは楽しみにしていました。思うような開催ができないことが大人にとっては心苦しく悔やまれますが、園生活を守りながら子どもたちが楽しみにしているイベントをできる限り実施できるように工夫していくしかありません。限られた環境、室内ではありますが、子どもたちは練習であっても「今日は運動会する？」と楽しみにしていました。個人競技で密かに勝敗にこだわり、他クラスのチームに声援を必死に送る姿も見られました。「もしも…」と願えば尽きませんが、与えられた状況下をどう活かしていくかで楽しみも広がると信じています。形は変わりますが、皆様とご一緒に楽しいひと時を過ごせるように準備し、お待ちしております！

さて、ここで問題です！『海の運動会です。なかよく二人三脚をしてイカさんタコさんは、何番目にゴールしたでしょう？』…「なぞなぞ」を分級で取り上げ始めた頃は子どもたちの頭の上に面白いぐらい「？」マークが浮かんでいました。「なぞなぞ」の面白いところは、答えを出すのにひとひねり必

要なところでしょうか。でも、いつしかこの「なぞなぞ」も、子どもたちの楽しみのひとつになり、朝の頭の体操になっています。問題の知っている単語だけを拾っても答えに結びつかないので、最後まで聞かねばなりません。子どもたちと話していると、知っている言葉だけを聞き取って、人と人との話に入り込んで自分の話をしようします。「誰がどんな話をしているのか」を待つ、そして何より慌てず最後まで聞き取ることの練習に「なぞなぞ」はなっています。そして、問題を理解するためにはわかっているつもりの「もの」の質を知ったうえで、説明ができる語彙力・国語力が「なぞなぞ」からも養えるということです。「あれ・それ・これ・どれ」の代表される指示語は多様に活用できる反面「あれってなに？」と問われると言葉に詰まってしまうことはありませんか。日常の会話の中でいろんな言葉を通して「もの」を知り、反対に生活の中にある「もの」を言葉でどう表現し伝え合うか？を意識的に取り入れたいところです。先日、降園時に玄関先に宿題として張り出した「四角の問題」を覚えてくださっていますか？翌日、お家の方と考えた答えを示してくれたのは全員ではありませんでしたが、「宿題してきた～」と登園するや否や私のところに答えを持ってきてくれました。答えの正誤ではなく、問われたことを考える機会を持っていただくことが大事だと思っています。この四角の問題も、身の回りを見渡せば四角はたくさんあるけれど、よく見ると形が違うことに気が付きます。敢えて「四角は四角でも、どんな四角？」と尋ねると、子どもたちは「普通の四角」と答えました。目の前の異なる四角を観察したうえで、再度同じ問いをすると「正方形・長方形」の特徴を子どもたちは自分の言葉で説明しようします。子どもたちが「なんで？」と疑問に感じたことに丁寧に応じる、そして私たちも「なんで？」と敏感なアンテナをもって、子どもたちと一緒に「なんですか？」と考える時間が必要に感じています。読み書き計算...知識として答えを求めるのは、これから先に十分経験できます。

でも、今一度大切にしたいのは五感を通した具体的な身近な経験です。決して難しいことではありません。例えば季節の移ろいは、目に映る草木や空の高さ雲の形、食欲をそそる香りに、秋の夜長に響く虫の声、肌を通して感じる風の冷たさ...感じたことを言葉にしてやり取りするなかで、教わずに身につく「感覚」が研ぎ澄まされていきます。その機会を敢えて「宿題」としてお出しすることがこれからあると思います。答えはひとつではないことがたくさんあるので、「正解」だけを求めているわけではないことをご承知いただければと思います。まもなく各ご家庭に届く就学通知に関しても子どもたちを通してお尋ねすることになると思います。否応なしに小学校が迫ってきます。半年後のために「荷物は自分で持つ秋」「登園時間も守る秋」「服や荷物は前日に用意する秋」「読書の秋（ページ数の多いものを読み進める）」「お手伝いの秋」...寒い冬が来る前に「〇〇の秋」で準備を始めませんか？

『なぞなぞ』の ans. : 9番（吸盤）